

EXCITING WHEELS for EURO



毎年、年末から年始にかけてニューホイールが賑々と登場する。セマショーにエッセンモーターショー、それに東京オートサロンに向けた最新プロダクトのラインナップが確定してくるからだ。今シーズン大流行なのは、やはりコンケーブ&フォード。各社からさまざまなコンケーブ&フォードが出てきているから「2012年はどんなホイールを期待したいか」、年末年始は思いっきり悩んでみたい。

DPE SP-SC7 x AUDI S5

ディーピーイー・SP-SC7 x アウディ S5

CALL 03-5922-0000 shop Utsunomiya (ホンダショップ浦和)
 [P48] [E51-441] www.hondashop.co.jp
 MODEL>>EMU OCHIAI (緊急受発)
 PHOTO>>AKIO HIRANO (平野 暁)



ディープコンケーブ前後 20x10.0 の衝撃!

USテイストをがっちり取り入れたクルマ作りをしていくなら「スタグガー(フィットメント)」が現在のスタンダードトレンド(=車体の姿勢の流行)。前後通しのタイヤをホイールじゃなく、FFや4WDでもFRのハイパワー車のように、リア側に幅広いホイールスタイヤ(タイヤ外徑は一統)を持ってくる。こうしたスタイルを得意としているのが、US鍛造ブランドなのだから。とくにDPEはUSユーロブームの始めのころからスタグガーばっかりやってきた第一人者であるのだが、ホンダショップ浦和ではこの流行を逆手にとって、斬新な履き方をアウディS5に試してきた。スーパーコンケーブシリーズからツインア本スポーグのSP-SC7を選び出し、前後100通してS5にマウントさせてきたのだ。しかもタイヤはコンチネンタル・クロスコンタクト5Pの295/30R20という巨大サイズを前後通して!

そのインパクトと言ったらご覧の通り。普通の3ピースディープリムだったら、ちょっとドンドン臭くなっていかも知れないのに、ディスク厚の厚みがか

りあり立体感あるスーパーコンケーブでは、違和感はいらない。それどころか、新しすぎて目を引きまくる。これはヤバい! つまりスーパーコンケーブのSP-SC7はスタグガーにしてもトラディショナル的にキマるし、無理めの前後通しをマウントすればさらに個性が際立つのが判明した。

このSP-SCシリーズ、現在8デザインがラインナップされる。USではBMW以上のアッパー~ハイエンドに装着されることが多いブランドだから、ブラッシュドやクロームの質感もバツグン。さらに鍛造のメリットを生かして、SP-SC10のような繊細なデザインやSP-SC55や7Sのようにディープコンケーブ+センター部の落とし込みを両立する拡張したモデルもラインナップする。

フットワークから一切の妥協を排して最高のカッコ良さを求めるなら、DPEのSP-SCシリーズ。無理めなサイズをなんとか履いて収め切れれば、それこそドンピシャなスタンスが得られる。US鍛造ホイールの楽しみ方の奥義がそこにある!



DPEのスーパーコンケーブは全8デザイン

DPEのSP-SCシリーズはすべてスーパーコンケーブの3ピースフォード。でもデザインが単調になることなく、各種類のラインナップの中でもさまざまな個性を持っているのはさすが。とくにSP-SC55やSP-SC7Sではコンケーブにセンターの落とし込みをつけているし、SP-SC10ではかなりの繊細なデザインも持っている。やがてSP-SC10にマウントしているSP-SC7は、どんな車種にも合うコンケーブの定番デザインと呼べるものだ。



01. フロントタイヤは純正オプション程度の255x265で踏めるのが25の定規。でも295/2920のコンタクト5Pのコンタクト5PはSP-SC7の10.0を合わせたことメインパッドあるスタイリングがでまわった。02. 通っている部分にはコンケーブの高さが異なる。リム内側の部分があるかどうか。この部分、コンケーブがあるってこと。03. リアはS5には10.5や11.0のリム幅を入れることも可能だが、フロントタイヤの厚みを合わせる必要はない。厚みがあるから、だから厚み10.0がベスト。04. スタイアの重量でフロントに100kgのリム幅を入れるならホンダショップ浦和しかできない無理めは! (以前、A7804でも試したことがある)。タイヤサイズを295/25.0でもチャレンジしたらこそ新スタイルができなかった!

